

烏帽子会会報

2025年秋号 Vol.79

研究奨励賞
受賞者



FU-OMSA
受賞者



烏帽子会賞
受賞者



研究奨励賞論文抄録

烏帽子会賞受賞の言葉

福岡大学医学部同窓会

目 次

・ 大学首脳人事	3
・ 副会長挨拶	武 末 佳 子 3
・ 総会報告	
福岡大学医学部同窓会 第44回 烏帽子会総会 報告	荒 武 憲 司 5
・ 研究奨励賞	
令和7年度 研究奨励賞選考報告	三 浦 伸一郎 8
令和7年度 研究奨励賞受賞者名簿	9
・ 令和7年度 受賞論文抄録	
Antibody Response Following the Intranasal Administration of SARS-CoV-2	
Spike Protein-CpG Oligonucleotide Vaccine (論文)	村 西 謙太郎 9
Co-culture of vascular endothelial cells enhances corticosterone	
production in steroid hormone-producing cells generated from adipose-derived	
mesenchymal stromal cells (論文)	新居見 俊 和 10
Trimebutine prevents corneal inflammation in a rat alkali burn model (論文)	後 藤 均 10
Elevation in white blood cell count and development of hyper LDL cholesterolemia	奥 津 翔 太 11
Lower plasma tumor necrosis factor- α is associated with symptomatic	
remission in patients with schizophrenia (論文)	浅 田 遼 11
・ 総会報告 (受賞者) / FU-OMSA賞状・タイバー授与	12
・ 烏帽子会賞賞状授与	16
・ 学会報告	
第72回九州学校保健学会 開催のご報告と御礼	永 光 信一郎 17
日本人口学会第77回大会開催のご報告	有 馬 久 富 18
第4回 和温療法学会学術集会開催のご報告	三 浦 伸一郎 19
第75回 日本体質医学会総会 開催のご報告	小 林 邦 久 20
日本泌尿器科学会福岡地方会第316回例会 開催報告	羽 賀 宣 博 21
・ 令和6年度評議員会まとめ	23
・ 西部会・全国会報告	
第32回 全国私立医科大学同窓会連絡会 西部会、および	
第33回 全国私立医科大学同窓会連絡会 全国会のご報告	北 島 研 25
・ 支部だより	
第20回北九州支部レディース会	安 藤 由起子 26
・ 学生会員支援報告	
新入生歓迎会	小 玉 正 太 27
M4CBT激励会報告	北 島 研 29
令和7年度 M1白衣授与式のご報告	北 島 研 33
・ キャンパスだより	
西医体と節目	瀬 口 絢 士 35
烏帽子会賞を受けての想い	山 田 芙実香 36
・ 福岡大学医学部同窓会諸表	37
・ 医局長・医長名簿	39
・ 教育職員人事／会報原稿募集／編集後記	40
・ 烏帽子会の主な事業	41

同窓会ホームページ共通 ID、パスワード

ID : eboshikai
パスワード : fukudai1 (数字)



ホームページ用二次元
バーコード

大学首脳人事

大学首脳人事

(関係分抜粋・いずれも12月1日)

学 長	永 田 潔 文 (理学部)
副学長	則 松 彰 文 (人文学部 教学担当)
副学長	永 星 浩 一 (商学部 財政・学生・情報担当)
副学長	山 下 恭 弘 (法学部 研究・社会連携・就職・ガバナンス担当)
副学長	吉 満 研 吾 (医学部 医学・医療・健康担当)
医学部長	小 玉 正 太 13 回生
大学院研究科長	廣 松 賢 治
福岡大学病院長	三 浦 伸一郎 11 回生
福岡大学筑紫病院長	二 村 聡
福岡大学西新病院長	山 本 卓 明

副会長挨拶

副会長挨拶

烏帽子会 副会長 武 末 佳 子 (11回生)



記録的な酷暑となった今年の夏、全国各地で熱中症搬送が相次ぎ、その数は10万人を超え過去最高となりました。私たち医療従事者としては、厳しい対応を迫られたこともあるでしょうが、皆様はいかがでしたでしょうか。

政治の世界では高市首相のもとで新内閣が発足

し、さまざまな意味での“変化”への期待が、高い支持率として表れているようです。なかでも若年層の支持を得ているそうですから、政治に対する期待感の回復とともに若者の政治参加意欲を後押ししていると言えます。

これを私たち烏帽子会に置き換えてみるとどうでしょう。新たな執行部が発足し、さまざまな変化をもたらしました。支持率が高いかはわかりませんが、新陳代謝が図られました。しかし、同窓会への若い方達の参加意欲をあげ、同窓会に対する期待感を回復することは課題として残っています。

そもそも同窓会は「旧友と再会し懐かしい思い出を共有」しつつ、「縦横の相互交流と人脈を拡大」し、「母校と連携しその発展を支援」すると

いう三つの柱が基本です。毎年総会（新規約では会員大会）を開催しますが、参加者の顔ぶれは似たりよったり。忙しく異動も多い若い年代では、同窓会に関心を寄せている余裕などないのは当然です。そこで平成10年から、総会開催の学年当番制を始めました。これは、大学卒業後20年ほど経ち、仕事もプライベートもひと段落ついた頃に、烏帽子会総会の幹事を担うことで同窓会に目を向け関わって頂き、旧友と再会し交流して頂くという意図です。その後も、同級生との交流が続き、あるいは先輩後輩との繋がりが広がることで、会員の皆さまの個人や仕事上の発展につながる。その流れは、母校への支援にも結びついていくと信じています。同窓会への考え方は十人十色ですから、運営・企画については当番学年にお任せし

ています。理事会や事務局が後方支援をするのはもちろんですが、ユニークな楽しい、あるいは学術性の高い企画で全会員に興味を持って頂き、総会の賑わいを高めて頂きたいです。

この烏帽子会は、私にとって楽しいものでした。ワクワクしながら出かけていました。そんな会を取り戻したい一念のみが、まだ、ここに副会長として携わらせて頂いている大きなそして唯一の理由です。

時は流れます。厳しい自然環境や社会の変化には対応していくしかありません。そしてこういう時だからこそ、医師になった時の初心にかえり、さすが福岡大学医学部出身、と言われるような医療も提供し続けてゆきたいと思うのです。

皆様のさらなるご活躍をお祈り申し上げます。

令和8年度 福岡大学医学部同窓会烏帽子会

研究奨励賞募集要項

対 象：正会員及び準会員で、原則40才未満の者または学部卒業後10年未満の者
(本会会費完納を条件とする)

研究課題：医学に関するものであれば自由(医学に関する研究計画又は研究論文)

申請方法：所定の申請書による(所定欄に支部長推薦を要す)

提出先：〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局
TEL 092-865-6353 (直通) 代表 092-801-1011 / 内線3032 Fax 092-865-9484

締 切：令和8年5月7日(木) 提出は一人一件とする。

過去受賞した申請者は、以後審議選考者として含まない。

賞状・賞金：奨励賞(優秀論文賞を含む) 5件以内

発表及び表彰：令和8年7月4日(土) 予定、第45回福岡大学医学部同窓会烏帽子会総会席上
必ず出席する事

そ の 他：①論文受賞者は抄録を提出すること
計画受賞者は1年後研究成果報告書を提出する事
②申請書は同窓会事務局に請求又は同窓会ホームページからダウンロードの事
③申請書はワープロで記載し、過去の研究業績(原著、著書、症例報告、学会発表)、
研究の独創性・重要性を十分に書く事

※準会員の方もお応募ください。

総会報告

福岡大学医学部同窓会 第44回 烏帽子会総会 報告

第44回烏帽子会総会 理事 荒 武 憲 司 (28回生)

この度、第44回烏帽子会総会を開催させていただくことができましたので、ご報告させていただきます。令和7年7月5日にソラリア西鉄ホテルにおいて、第44回烏帽子会総会を開催させていただき、総会に引き続いて、研究奨励賞5名、FU-OMSA10名の表彰、烏帽子会賞2名の表彰式を行いました。また、懇親会においては、福岡大学同窓会有心会理事長 川畑懿子様よりご挨拶いただき、引き続き朔名誉学長・名誉会長より「福岡大学朔烏帽子会医学・医療功労者表彰基金」の表彰式が行われ、第1回目の表彰には、1回生の野崎藤子様が選出されました。

講演会では、我が同窓生である整形外科医の横関弘一先生より小児整形外科領域の興味深い講演をしていただきました。

たくさんの方々に参加していただき、時間の許す限り、交流を楽しんでいただいたことと思います。もっとももっと時間をとって、更なる交流を持ちたいと思いながら閉会となりました。

今回、滞りなく総会を開催できたのは、同窓会の諸先生方、烏帽子会事務局の方々の温かいご支援のおかげとっております。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。今後とも御指導・御鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

また、後輩たちにこれらを引き継ぐとともに、もっともつと会を盛り上げていただきたいと切に思っております。



28回生



総会風景



総会風景



和田秀一副会長 乾杯



川畑懿子有信会理事長ご挨拶



朔名誉学長ご挨拶



医学・医療功労者表彰基金 野崎先生表彰



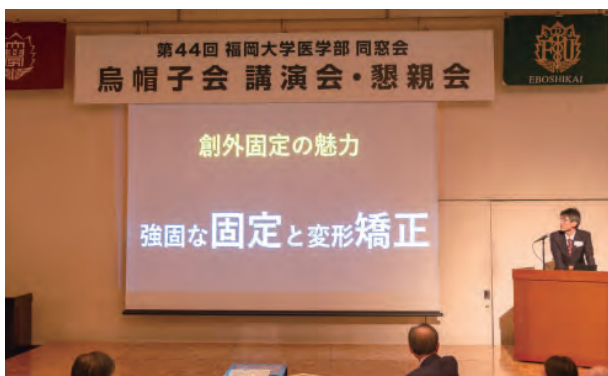
野崎先生謝辞



朔名誉学長と野崎先生



喜多村先生、村西先生、奥津先生、仲村先生



講演 28 回生横関弘一先生



29 回生への幹事引き継ぎ



校歌



校歌



校歌



校歌

研究奨励賞

令和7年度 研究奨励賞選考報告

選考委員長 三 浦 伸一郎 (11回生)



本年度の研究奨励賞には、計17件の研究論文の応募がありました。応募論文はいずれも例年にも増して質が高く、ハイ・インパクトな成果が多数寄せられました。

中でも、今回の応募論文における最高インパクトファクターは5.2であり、福岡大学医学部・病院関連の先生方による新たな知見の発信に、改めて深く感謝申し上げます。審査は、24名の審査員による採点およびディスカッションを経て厳正に行われ、その結果、最優秀賞2名、優秀賞3名が選出されました。最優秀賞には、下記の2論文の筆頭著者が選ばれました。

“Muranishi K et al. Antibody Response Following the Intranasal Administration of SARS-CoV-2 Spike Protein-CpG Oligonucleotide Vaccine.”

“Niimi T et al. Co-culture of vascular endothelial cells enhances corticosterone production in steroid hormone-producing cells generated from adipose-derived mesenchymal stromal cells.”

これらの研究は、独創性と科学的意義の高さにおいて審査員から特に高い評価を得ました。受賞者の皆様には、今回の受賞を励みに、今後も一層研究活動を発展させていただけることを期待しております。



左から浅田先生、奥津先生、後藤先生、小玉会長、新居見先生、村西先生

● 令和 7 年度 研究奨励賞受賞者名簿 ●

福岡大学医学部 救命救急学 福大助教 村 西 謙太郎 (正会員 35 回生)	Antibody Response Following the Intranasal Administration of SARS-CoV-2 Spike Protein-CpG Oligonucleotide Vaccine (論文)
福岡大学医学部 小児科学 福大助教 新居見 俊 和 (準会員)	Co-culture of vascular endothelial cells enhances corticosterone production in steroid hormone-producing cells generated from adipose-derived mesenchymal stromal cells (論文)
日本医科大学 眼科学 後 藤 均 (正会員 40 回生)	Trimebutine prevents corneal inflammation in a rat alkali burn model (論文)
福岡大学医学部 総合診療学 福大助教 奥 津 翔 太 (正会員 37 回生)	Elevation in white blood cell count and development of hyper LDL cholesterolemia
福岡大学医学部 精神医学 福大助教 浅 田 遼 (準会員)	Lower plasma tumor necrosis factor- α is associated with symptomatic remission in patients with schizophrenia (論文)

令和 7 年度 受賞論文抄録

Antibody Response Following the Intranasal Administration of SARS-CoV-2 Spike Protein-CpG Oligonucleotide Vaccine (論文)

福岡大学医学部 救命救急医学 福大助教 村 西 謙太郎 (35回生)



【背景と目的】

新型コロナウイルス感染症は SARS-CoV-2 の経気道感染により重篤な呼吸不全を来す。現在、本邦で認可されているワクチンは全て筋肉内投与である。一方、経鼻投与は粘膜免疫を高め、より低侵襲かつ副作用の少ないワクチン作成が可能である。

【方法】

SARS-CoV-2 スパイク蛋白である S1 全長もしくははその RBD (receptor binding domain) に CpG-ODN (CpG-oligodeoxynucleotide) もしくは alum (aluminum hydroxide gel) を組み合わせた

組み換え蛋白ワクチンをマウスに経鼻または皮下投与を行い、血清特異的 IgG、肺胞洗浄液 IgA 抗体価及び中和抗体価を測定した。

【結果】

S1 蛋白と CpG-ODN の経鼻投与群及び S1 蛋白と alum の皮下投与群で血清 IgG の有意な上昇を認めた。また、S1 蛋白と CpG-ODN の経鼻投与群では、肺胞洗浄液 IgA 及び IgG の有意な上昇、血清及び肺胞洗浄液の有意な中和抗体価上昇を認めた。

【結論】

CpG-ODN をアジュバントとする S1 組み換え蛋白ワクチンの経鼻投与は有効なワクチン候補となる可能性がある。(Vaccines 2024, 12, 5.)

Co-culture of vascular endothelial cells enhances corticosterone production in steroid hormone-producing cells generated from adipose-derived mesenchymal stromal cells (論文)

福岡大学医学部 小児科学 福大助教 新居見 俊 和 (準会員)



【目的】

副腎皮質機能不全に対する細胞療法によるステロイド補充を目指し、ステロイド産生細胞の分化誘導を検討してきた。脂肪組織由来間葉系細胞 (ADSC) に、ステロイド産生の主要な転写因子 Nuclear receptor 5A1 (NR5A1) を導入して作製したステロイド産生細胞 (NR5A1-ADSC) は、副腎および性腺型のステロイドを産生する。本研究では、副腎皮質細胞が血管内皮細胞と隣接して存在することに着目し、NR5A1-ADSC と血管内皮細胞 (VEC) との共培養によるステロイド産生能の変化を検討した。

【方法】

C57BL/6 マウス由来 ADSC に NR5A1 アデノウイルスを感染させ、NR5A1-ADSC と VEC との共培養実験を行った。培地中のステロイド濃度を ELISA で測定し、ステロイド合成酵素や

ACTH 受容体の発現をリアルタイム PCR で解析した。また、VEC 以外との共培養、トランズウェル培養、type IV collagen および laminin コーティングディッシュでの培養実験を行い、ステロイド産生を解析した。

【結果】

共培養により精巣型ステロイドは変化せず、副腎型ステロイド産生が VEC の細胞数に依存して増加した。副腎型ステロイド合成酵素や ACTH 受容体遺伝子の発現も増加した。その効果は、VEC 特異的かつ接着依存的であった。また、NR5A1-ADSC を細胞外マトリックスである type IV collagen + laminin でコーティングしたプレートを培養すると、コーティングなしと比べ、副腎型ステロイド産生のみが増加した。

【結論】

VEC との共培養は NR5A1-ADSC の副腎型ステロイド産生を選択的に促進し、より副腎皮質様のステロイド産生細胞への誘導が示唆された。

Trimebutine prevents corneal inflammation in a rat alkali burn model (論文)

日本医科大学付属病院 眼科 後 藤 均 (40回生)



High mobility group box 1 (HMGB1) は、炎症や免疫応答、創傷治癒に関与するダメージ関連分子パターンであり、眼疾患の治療標的となりうることで近年注目されている。既存の消化管運動調律剤であるトリメブチンマレイン酸塩 (以下、トリメブチン) は、HMGB1 receptor for advanced glycation end products (RAGE) 経路を阻害する

が、眼科領域で検討された報告はない。今回、ラット角膜アルカリ熱傷モデルを用いて、トリメブチン点眼液の創傷治癒効果を検証した。トリメブチン点眼液使用群は非使用群と比較し、創傷治癒の初期段階ではマクロファージを、後期段階では好中球の浸潤、血管新生、瘢痕形成を有意に抑制した。また、インターロイキン 1 β の発現も有意に抑制していた。トリメブチンが角膜創傷時の瘢痕形成を予防する新しい治療薬剤となる可能性が示唆された。

Elevation in white blood cell count and development of hyper LDL cholesterolemia

福岡大学医学部 総合診療学 福大助教 奥 津 翔 太 (37回生)



【目的】

日本人の成人一般住民における白血球数の増加と高LDL-C血症の発症との関連を明らかにする

【研究デザイン】

後ろ向きコホート研究

【方法】

2008年度~2017年度までに長崎県壱岐市の健診を2回以上受診し、追跡開始時に高LDL-C血症を認めなかった30歳以上の一般住民3,312人(平均58.9 ± 11.3歳, 男性1,711人, 女性1,601人)を対象とした。健診開始時において白血球数を測定し、その四分位で集団を4つのグループへ分け、(グループ1: <4,400 / μ L, グループ2: 4,400-5,300 / μ L, グループ3: 5,400-6,300 / μ L, グループ4: >6,400 / μ L)、アウトカムは観察期間内での高LDL-C血症の発症及びその投薬とした。高LDL-C血症発症率の群間差の検討には傾向検定を用いた。Cox比例ハザードモデルは年齢、性別、喫煙、飲酒、運動習慣、肥満、高血圧、糖

尿病で調整したハザード比と95%信頼区間の推定に用いた。

【結果】

平均追跡期間は4.6年で698人が高LDL-C血症の発症をみた(46.8 / 千人年)。高LDL-C血症の発生率は、白血球数の増加とともに増加した(グループ1:38.5、グループ2: 47.7、グループ3: 47.3、グループ4: 52.4、/ 千人年, P for trend=0.012)。多変量解析で白血球数増加が高LDL-C血症発症の独立したリスク因子であった(グループ1 vs 4ハザード比; 1.39, 95%信頼区間; 1.10-1.75, P for trend=0.006)。

【考察】

日本人の成人一般住民において、白血球数増加は、高LDL-C血症発症の独立したリスク因子である可能性が考えられた。

【結論】

従来の心血管リスク因子の管理に加えて、白血球数に基づくハイリスクアプローチは、高LDL-C血症発症およびその後の心血管イベントに対して有用である可能性がある。

Lower plasma tumor necrosis factor- α is associated with symptomatic remission in patients with schizophrenia (論文)

福岡大学医学部 精神医学 福大助教 浅 田 遼 (40回生)



統合失調症の病態仮説の1つに神経炎症仮説がある。多くの研究で統合失調症と炎症性サイトカインの関連が報告され、特にTNF- α はメタ解析において、急性期及び慢性期の統合失調症患者で上昇していることが示されている。しかし、近年では症状が改善した統合失調症においてTNF- α は健常者よりも低いという報告もある。このように、TNF- α は統合失調症の状態次第ではメタ解析の結果とは異なる可能性がある。これらの報告を踏まえ、我々は統合失調症の寛解期におけるTNF- α の血漿レベルを健常者と比較し、さらに

TNF- α と認知・社会機能との関連を評価することを目的とした。48名の寛解状態の統合失調症患者と20名の健常者を対象とし、血漿TNF- α 濃度、認知機能(BACS-J)、社会機能(SFS-J)などを測定した。結果、統合失調症群は健常者よりもTNF- α レベルが有意に低く、また認知機能や社会機能との相関は認められなかった。以上より、TNF- α は寛解期統合失調症の機能よりも症状に関連する可能性があり、統合失調症の寛解に関連したバイオマーカーとしての有用性が示唆された。今回の結果をふまえ、治療開始時から患者を経時的に評価し、TNF- α と統合失調症寛解期の関係を評価する前向き研究を実施する必要があると考えた。

最優秀賞

福岡大学医学部 救命救急医学

村西謙太郎先生 35回生

Kentaro Muranishi, MD, PhD

Antibody Response Following the Intranasal Administration of SARS-CoV-2 Spike Protein-CpG Oligonucleotide Vaccine
Vaccines 2024, 12(1) 5

令和7年度烏帽子会研究奨励賞



最優秀賞

福岡大学医学部 小児科学

新居見俊和先生 準会員

Toshikazu Niimi, MD, PhD

Co-culture of vascular endothelial cells enhances corticosterone production in steroid hormone-producing cells generated from adipose-derived mesenchymal stromal cells
Scientific Reports 2024, 14, 18804

令和7年度烏帽子会研究奨励賞



優秀賞

日本医科大学 眼科学

後藤均先生 40回生

Hitoshi Goto, MD, PhD

Trimebutine prevents corneal inflammation in a rat alkali burn model
Scientific Reports 2024, 14, 12111

令和7年度烏帽子会研究奨励賞



優秀賞

福岡大学医学部 総合診療学

奥津翔太先生 37回生

Shota Okutsu, MD, PhD

Elevation in white blood cell count and development of hyper LDL cholesterolmia
Scientific Reports 2023, 13, 8292

令和7年度烏帽子会研究奨励賞



優秀賞

福岡大学医学部 精神医学

浅田遼先生 40回生

Ryo Asada, MD, PhD

Lower plasma tumor necrosis factor- α is associated with symptomatic remission in patients with schizophrenia
Journal of Psychiatric Research 2024, 177, 299

令和7年度烏帽子会研究奨励賞





仲村教授と村西先生



小玉会長と新居見先生



小玉会長と後藤先生



小玉会長と奥津先生



小玉会長と浅田先生

FU-OMSA賞状・タイバー授与

令和7年7月5日総会にて賞状と名前が印刷されたタイバーの授与を行いました。



岡本 克隆さん



園田 卓己さん





嶋 彩乃さん



徳野 花さん



吉井 優斗さん



浅野 大さん



湯朝 遥基さん



一木 瑞月さん



瀬口 絢士さん



山本 雅之さん

烏帽子会賞賞状授与

烏帽子会賞賞状授与

九州山口医科学生体育大会が開催され、水泳愛好会、ゴルフ愛好会の方々が優秀な成績を収められましたので、令和7年7月6日総会において賞状と賞金を授与を行いました。

学年	愛好会名	姓名	受賞対象
5年生	水泳愛好会	瀬口 絢士	第76回西日本医科学生総合体育大会 男子50M.100M 自由形1位
3年生	ゴルフ愛好会	山田 美実香	第63回九州・山口医科学生体育大会 ゴルフ女子個人優勝
3年生	ゴルフ愛好会	山田 美実香	第64回九州・山口医科学生体育大会 ゴルフ女子個人優勝

水泳愛好会



瀬口 絢士さん



前水泳愛好会顧問の朔名誉学長、山田さん、柴田教授、小玉会長、瀬口さん

ゴルフ愛好会



山田 美実香さん



山田さんとゴルフ愛好会顧問の柴田教授

学会報告

第 72 回九州学校保健学会 開催のご報告と御礼

福岡大学医学部 小児科学 主任教授 永 光 信一郎 (13回生)

秋冷の候、烏帽子会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、去る 2025 年 8 月 24 日（日）、母校である福岡大学病院メディカルホールにおきまして、第 72 回九州学校保健学会を主催いたしました。本学会の開催にあたりましては、福岡大学医学部同窓会「烏帽子会」より多大なるご寄付を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

本学会は「こどもに健やかな睡眠を」をテーマに掲げ、現地と Web を併用したハイブリッド形式で開催し、約 100 名の方が参加くださいました。近年、スマートフォンの普及や生活様式の多様化により、こどもたちの睡眠不足や睡眠の質の低下が深刻な問題となっています。この問題は、学力や体力の低下のみならず、不登校や精神的な不調にも繋がる重要な健康課題です。そこで本学会では、学校現場と医療の専門家が連携し、こどもたちの健やかな成長を睡眠の観点から支える方策を探ることを目的といたしました。

基調講演では、堺市立鳳中学校の木田哲生教頭先生に「みんなのすすめ～睡眠が変わればこどもが変わる～」と題してご講演いただきました。教育現場の最前線で睡眠教育（みんなく）を実践されてきたご経験から、具体的な指導法や、それに

よってこどもたちが前向きに変化していく様子が語られ、参加者一同、大変感銘を受けました。

続くパネルディスカッションでは、「ライフステージを通した睡眠医学と睡眠教育」をテーマに、各分野の専門家にご登壇いただきました。九州大学の中原一成先生からは胎児期の睡眠形成における母親の睡眠の重要性について、本学睡眠センター長の吉村力先生からは小児から成人まで一貫した睡眠教育の普及の必要性について、そして久留米大学の松岡美智子先生からはヤングケアラーなど特別な配慮が必要なこどもの睡眠とメンタルヘルスの問題について、それぞれ専門的かつ示唆に富むご発表をいただき、活発な質疑応答が交わされました。

当日は、医師、養護教諭、学校教員など多くの学校保健関係者にご参加いただき、盛会のうちに幕を閉じることができました。皆様から賜りましたご寄付のおかげをもちまして、充実した内容の学会を開催できましたことを、重ねて感謝申し上げます。本学会で得られた知見を、今後のこどもたちの健やかな育成に繋げていく所存です。

末筆ではございますが、烏帽子会会員の皆様の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



日本人口学会第 77 回大会開催のご報告

福岡大学医学部 衛生・公衆衛生学講座 教授 有 馬 久 富 (特別会員)

令和 7 年 6 月 7 日および 8 日に、福岡大学 A 棟にて、日本人口学会第 77 回大会を開催いたしました。本学会開催にあたり、医学部同窓会からご支援を賜りましたことに心より御礼申し上げます。

現在、世界人口は依然として増加を続ける一方、先進国を中心に出生率の低下と急速な高齢化が進行し、日本を含む一部の国では人口減少社会に突入しました。こうした複雑な問題を解決するためには、日本人口学会ではさまざまな分野の専門家が集結して学際的な人口研究に取り組んでいます。

日本人口学会第 77 回大会には、全国から 121 名の研究者に参加していただきました。大会では、開催校企画としてシンポジウム「健やか 100 年時代をめざす人口学」を開催しました。シンポジウムでは、健康で活動的に過ごせる健康寿命を延ばすうえでの社会的・経済的な課題をさぐり、社会全体としてどのように高齢化に向き合っていくべきかについて熱い討論が繰り広げられました。本学からは私と福岡大学病院睡眠センター長 吉村力先生が講演をおこないました。また、福岡大学との連携協定を締結している壱岐市から、長崎県壱岐病院院長の向原茂明院長先生に「人口減少時

代の健康なまちづくり」というタイトルでご講演いただきました。さらに、本学の社会医学研究会に所属する医学生 5 名もシンポジウムに参加してくれました。企画セッションでは、「人口減少下における農業と農漁村」、「地域別将来人口推計の意義と課題」、「国民移転勘定 (NTA)・国民時間移転勘定 (NTTA)：データ及び最新研究事例の紹介」、テーマセッションでは「出生への歴史文化的要因の影響：2026 年ひのえうまを前にして」について議論されました。自由討論のセッションでは、「出生」、「家族・結婚」、「労働」、「人口移動」、「死亡」、「統計」、「人口モデル・応用」、「政策」など人口問題に関連する多様なテーマについての発表が行われました。参加された先生方には、活発なご議論をいただき、盛会のうちに修了いたしました。

今回の日本人口学会第 77 回大会が滞りなく開催できましたのは、同窓会の先生方からのご支援の賜物と、あらためて心より御礼申し上げます。今後とも、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



第4回 和温療法学会学術集会開催のご報告

福岡大学医学部 心臓・血管内科学 教授 三浦 伸一郎 (11回生)

この度は、福岡大学医学部同窓会のご支援の下、2025年11月2日(日)、福岡大学病院メディカルホールにて、第4回和温療法学会学術集会をテーマ「和温療法：診て識る あたたかい医療」として開催させていただきました。「あたたかい医療」は、福岡大学病院の理念であり「患者に寄り添い、安心安全な医療を提供すること」ですが、それは、まさに和温療法そのものであり、本学会のテーマとさせていただきます。ここに、紙面を借りまして、本学術集会のご報告させていただきます。

和温療法は、非薬物的かつ非侵襲的な治療法であり、患者の心身に寄り添う「和み」と「温もり」を基盤とする画期的な方法です。現在、日本をはじめとする欧米先進国においては、臓器別診療が高度に発展し、疾病の専門分化が進んでいます。そのような中、和温療法は、全身の血管内皮から一酸化窒素の産生を促し、血管拡張を通じて各臓器の機能を向上させるとともに、個々の臓器の枠を超えた包括的かつ全人的な回復をもたらす治療法として注目されています。既に確立された臓器

別治療と併用することにより、さらなる相乗効果が期待されています。これまで、多くの臨床家や研究者がその効果とメカニズムの追求に時間を費やしてきましたが、未だ様々な問題が残っています。そこで、本学術集会は、医療者や研究者がお互いの知恵を出し合い成果を発表し、情報を発信する機会として開催されました。

プログラムは、特別講演、理事長講演、教育講演、日本心臓リハビリテーション学会とのジョイントセッションを実施し、また、一般演題セッションでは、優秀演題賞も設けました。ランチョンセミナーでは、福岡県の4大学の循環器内科教授が座長と演者に分かれ、私から「和温療法のすすめ」を講演し、久留米大学福本教授には、「これからの心リハ」を講演していただきました。各講演やセッションとも、多くの質疑応答が活発になされ、今後非常に役に立つ知識を得ることができました。

最後になりますが、今回の学会が滞りなく開催できましたのも同窓会の先生方のご支援のおかげです。厚く御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



第75回 日本体質医学会総会 開催のご報告

福岡大学筑紫病院 内分泌・糖尿病内科 教授 小林 邦 久 (特別会員)

福岡大学医学部同窓会のみなさま、このたびは第75回日本体質医学会総会(令和7年9月27日・28日:福大メディカルホール)に対し、多大なるご援助をくださいまして、誠にありがとうございました。厚くお礼を申し上げます。日本体質医学会の第1回総会は昭和25年(1950年)であり、前身の研究会のはじまりは戦前にまでさかのぼる歴史の長い学会です。福岡大学が主催主体としておこなうのは初めてのことであり、光栄に感じるとともに、その重責に身の引き締まる思いで準備をいたしました。

近年、「生活習慣病」という言葉をみなおす動きがあります。糖尿病・肥満症・高血圧・脂質異常症などは、「個人の悪い生活習慣」のみが原因で発症するものではなく遺伝要因や社会環境(健康の社会的決定要因)も大きく影響していると認識されてきているからです。病気を持つひとの身体的・心理的・社会的側面などを含んだ全体像を把握して診療をすすめていく全人的医療の実践において体質医学のはたす役割はきわめて大きく、今後さらに重要性が増していくと思われます。このような理由から今回のテーマを「全人的医療における体質医学」といたしました。

最初に若手研究者審査講演(5人発表)のあと審査委員会がおこなわれ、3人の受賞者が決定されました。シンポジウム「全人的医療の実践のために一体質医学からのアプローチ」では有馬久富先生(福岡大学医学部衛生・公衆衛生学)・藤井純子先生(佐賀大学医学部附属病院看護部)・鈴木達郎先生(産業医科大学病院栄養部)の3人の先生に疫学研究者・看護師・薬剤師のそれぞれの立場から所見を述べていただきました。教育講演は以下の5つをエキスパートの先生がたにお願いいたしました。

- 1) 柳瀬敏彦 先生「体質医学から見たアンドロゲンの臨床的意義」
- 2) 能宗伸輔 先生「我が国における1型糖尿病の特徴と発症・進展に関わる体質」
- 3) 齋田厚人 先生「幼少期環境からみた肥満症の病態 ～薬物・外科治療時代の全人的アプローチ～」
- 4) 益崎裕章 先生「腸脳連関と代謝適応: 肥満症の病態解明と診療課題」
- 5) 浦田秀則 先生「Exercise Training for Coming Life (今からの人生のための運動療法)」

特別講演は東京大学大学院農学生命科学研究科教授の東原和成 先生に「嗅覚と健康」として匂いと嗅覚が人の心理・生理・情動・行動に作用し、ヒトの健康とQOLにいかに関与しているかを明らかにするすばらしい講演をいただきました。ほかにも2つのランチョンセミナーと1つのイブニングセミナーをおこないました。

同窓会のみなさまのおかげで参加者全員の知識と技術を増進する学会を開催することができました。あらためまして、ご支援を賜りましたことに心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。



日本泌尿器科学会福岡地方会第 316 回例会 開催報告

腎泌尿器外科学講座 主任教授 羽 賀 宣 博 (特別会員)

この度は、烏帽子会の多大なるご支援の下、上記学会を 2025 年 7 月 26 日（土）に当講座が主幹で開催することができました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。今回の地方会は、電気ビルみらいホールで開催となりました。参加者数は 150 名以上となり、登録演題数は 34 題となりました。演題数もさることながら、興味深い発表も数多くあり、大変勉強になりました。

当講座からは、今回 2 演題を発表させていただきました。岩田明斗先生が、「尿道閉塞に対する Augmented Anastomotic Urethroplasty 後の吻合部の膿瘍に対し保存的加療が奏功した 1 例」を発表しました。また、迫両太先生が、「動脈塞栓術施行後腹腔鏡下に腫瘍切除と膀胱部分切除を要した骨盤内パラガングリオーマ」の発表をいたしました。どちらのテーマも手術治療を中心としたテーマで、「臨床の福岡大学」を大いにアピールできたのではないかと自負しております。また、

地方会は、若手医師の学会発表の登竜門としての位置づけであると思われます。演者の 2 人は、当講座入局の一年目であり、今回が学会発表のデビュー戦でした。しかしながら、両者とも堂々と発表しており、さらに質疑応答も的確で、彼らの将来が今から楽しみです。

また、当講座の関連病院である福西会病院、古賀病院 21、飯塚病院、白十字病院からの発表もありました。日常の診療のみならず、学術方面にも力を入れてくれてきているようで、大変うれしく、そして頼もしく感じた次第です。驚きましたことに、大ベテランの白十字病院の吉田一博先生（福岡大学卒）もご自身の経尿道的手術の成績をご報告されており、そのバイタリティに感銘を受けた次第です。

さて、今回の地方会でいくつか新たな取り組みも行いました。一つ目は、特別講演の開催を見送ったことです。一般演題の登録数が最近増えてきて



地方会終了後の記念撮影

おり、学会自体が長時間に及んでいました。それに伴い、一般演題終了後の特別講演の参加者が、非常に少ないのが気になっていました。今回は、理事の先生方のご了解を得て、あえて特別講演の開催を行わないこととしました。特別講演終了後の情報交換会がないのが残念という先生もいらっしゃるかと拝察しましたので、休憩時間に情報交換を円滑にさせていただけるように、福岡一番と誉れ高いおいしいドーナツを準備しました。多くの先生方に喜んでいただいたようです。二つ目は、座長をあえて若手の先生にお願いしました。助教の岡部雄先生と青柳力夫先生（福岡大学卒）の二人とも多少はプレッシャーがあったと思いますが、非常に円滑に司会進行を進めてくださり、時間通りに会が終了いたしました。若い世代が台頭してくれることを見るにつけ、大変心強く思いました。

準備の段階から、医局員や秘書さんが、大変協力的に、そして率先して業務を行っていただきま

したので、私自身はほとんど苦勞せずに、地方会を無事終了することができました。この場をお借りして感謝申し上げます。そして、学会が無事盛会に終了したことを大変喜ばしく感じております。

末筆ではございますが、烏帽子会の皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。また、引き続き、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



おいしいドーナツで会員の皆様をおもてないたしました。

福岡大学医学部同窓会 在外研修援助金募集要項

長期研修

対 象：正会員、準会員（本会会費完納を条件とする）で医学の研究
または医療技術の習得のため、3ヶ月以上外国に留学する者

申請方法：所定の申請書により留学出発3ヶ月前までに提出の事

提 出 先：〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1

福岡大学医学部同窓会事務局

Tel 092-865-6353（直通）代表092-801-1011 内線3032

Fax 092-865-9484

援 助 金：1件20万円を限度とし、年間5件以内

発 表：本人に文書にて連絡

そ の 他：①受給者は帰国後その成果を同窓会会報に発表する事

②申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページ
からダウンロードの事

③研修中に生じた問題については同窓会は関与しない

なお在外研究援助金をうけ留学している者は、出来る限り学生会員海外研修助成事
賛同し、渡航研修する受け入れ側施設担当者として、協力する事が望ましい。

令和6年度評議員会まとめ

令和6年度 評議員会まとめ

- ◆日時 令和7年4月26日 16時
- ◆場所 TKP ガーデンシティ
PREMIUM 天神スカイホール
- ◆出席 理事監事21名、評議員30名(支部長8名)、
委任状49名 返信なし25名

◇報告・経過報告

- ・第119回医師国家試験状況説明
- ・令和7年度子女入試状況
- ・令和6年度研究奨励賞受賞者
- ・事業と行事
- ・黙祷 亡くなった先生方を悼み黙祷

◇議題1. 令和6年度収入支出決算見込 承認

◇議題2. 令和6年度事業報告及び令和7年度
事業計画(案)について 承認

①会報の発行

会報 例年2回春と秋に発行。送付先は正会員、特別会員、準会員、学生会員とその保護者、各医局、他学同窓会、医学部、病院、本学の役職者。昨年までは入学者分冊数増加していたが、6,100部を上限印刷部数とする。初巻から全てホームページ上で閲覧可能としており異動の多い若い先生方がそちらを利用するとの連絡多数となる。紙代、インク代の値上げのため増額としている。

②総会の開催

コロナ禍後は対面開催。着座形式を採用。令和7年度も令和6年度同様の予算を計上。

③支部活動援助

講師招聘援助金は筑後支部、長崎支部より申請あり。支部活動費は、支部徴収をしていただいて支部に対して通信運搬費等として援助している。各支部活動費は各支部の活動を援助するために使用している。令和7年度

も令和6年度同様の予算を計上。

④研究奨励賞

13件の論文、1件の計画が出された。最優秀2名、優秀賞3名、奨励賞1名、激励賞7名が選考委員会で決定した。令和7年度も令和6年度同様の予算を計上。

⑤在外研修援助金

令和6年度は正会員1名学生会員より1名の申請あり。令和7年度も令和6年度同様の予算を計上。

⑥学生会員支援

コロナ前は、新入生歓迎会、CBTやOSCE試験のためのM4激励会、国試に向けてのM6激励会と懇親会を開催していたが、コロナ後は新入生歓迎会の懇親会のみ開催し、M4激励会は5年生より直接CBT合格体験を聞く会や、CBT試験当日の飲物やおにぎりを準備へと変更した。令和7年度も令和6年度同様の予算を計上。

⑦白衣贈与

昨年度の支払いが遅くなったため今年は2年分の支払いとなり増額となる。令和7年度も令和6年度同様の予算を計上

⑧国試対策費

10月に国試対策画像講座を開催、12月には国試対策直前講座を開催している。国試当日役にたつようにと応援袋を準備している。令和7年度も令和6年度同様の予算を計上。

⑨支部祝儀贈与

令和6年度は、筑後、佐賀、関西、鹿児島4支部が総会を開催され祝儀を贈っている。令和7年度も令和6年度同様の予算を計上。

⑩学生行事援助

烏帽子会賞として水泳愛好会、柔道愛好会に授与した。令和7年度も令和6年度同様の予算を計上

⑪学会寄付

9件の申請があり規定にそって援助。令和7年度も令和6年度同様の予算を計上。

⑫慶弔贈与

5名の学内教授1名の他学教授の就任祝儀のグラスをお贈りした。2名の先生方へお花、ご仏前をお送りした。令和7年度も令和6年度同様の予算を計上。

⑬グッズ作製

ネクタイの本数減により50本作成のため費用を計上。

⑭会員名簿

作成なし。

⑮パニックマニュアルの発行

第8版当直医のためのパニックマニュアル作成のため費用計上。

⑯奨学金緊急貸与

令和5年度申請なし。令和7年度予算計上なし。

⑰縁結び

烏帽子会のホームページとサーバーを共有しているため半額ずつ使用している。令和6年度で終了するためR7年度は計上なし。

⑱保険コンサルティング紹介

案内に使用する封筒代だが、令和6年度は作成なし。令和7年度も令和6年度同様の予算を計上。

⑲ホームページ

烏帽子会WEBサイトサーバー費。令和7年度48,000円計上。今後サーバーのセキュリティ向上のため変更が必要。

⑳大学院生援助

令和6年度は9名申請。令和7年度も令和6年度同様の予算を計上。

㉑学生医学教育貢献者賞

令和6年度は1名該当者。令和7年度も令和6年度同様の予算を計上。

◇議題3. 令和7年度収入支出予算(案) 承認

◇議題4. 特別会計令和6年度決算見込み及び

令和7年度予算 承認

◇議題5. 名簿管理、年会費、学年会費のクレジット、コンビニ払いについて 承認

名簿管理システムは令和4年度の評議員会で承認済。進捗状況の説明。G-ings社のGシステムを利用し、事務局、サーバーを経由して同窓会会員のマイページで会員自身入力変更を行い事務局が管理する形をとる。システム内には決済のシステムがあり会費納入ができることが1つのポイントとなる。これにより支払い、納入状況の正確さが増す。会費納入の容易さから若い先生方の納入率上昇に繋がるのではないかとの期待感がある。納入方法はコンビニ払い、クレジット払い、銀行振り込みあり会員自身が選択できる。ただ慣れるまで

手間が心配案件である。移行期間として、クレジット、コンビニ払いを進めながら事務局から振り込み用紙の送付を同時に進めることが必要。具体的な金額としてシステムの追加があり、イニシャルコストがかかる。クレジット払いは元々システムとしてあるが、郵送においては別会社に頼まないといけない。2社に理事会での説明、見積もりをお願いし比較検討した結果G-ings社の関連会社に決定した。但し支部徴収は含まれない。

◇議題6. 決算評議員会の省略の権 承認

◇議題7. 福岡大学医学部同窓会烏帽子会第44回総会案内

◇議題8. 会則について

会則案は承認され今後の運営に反映する。ただし、改訂版を随時、理事会評議員会に提示し、見直しして行くことになった。

◇議題9. 新教授紹介・ご挨拶

令和7年4月1日より福岡大学病院総合周産期母子医療センター教授 井上貴仁先生 15回生
令和7年4月1日より福岡大学病院救急治療センター教授 喜多村泰輔先生 16回生
令和7年4月1日より福岡大学卒後臨床研修センター教授 八尋英二先生 18回生

西部会・全国会報告

第32回 全国私立医科大学同窓会連絡会 西部会、および
第33回 全国私立医科大学同窓会連絡会 全国会のご報告

烏帽子会理事 北 島 研 (21回生)

全国私立医科大学同窓会連絡会の西部会が令和7年9月27日、全国会が令和7年10月4日の両日に開催され、烏帽子会も出席させて頂きましたので、ご報告します。

まず西部会は、関西医科大学医学部同窓会が主幹となり、リーガロイヤルホテル大阪で開催されました。講演会では関西医科大学附属光免疫医学研究所 所長で特別教授の小林久隆先生が『がんの「光免疫療法」』というタイトルで臨床試験中の治療法についてお話がありました。講演会終了後は、次回西部会当番校である福岡大学医学部同窓会烏帽子会から小玉正太会長のご挨拶があり、「来年はぜひ福岡にお越し下さい」と告知をされました。懇親会では、各テーブルに分かれて他大学の同窓会役員の先生方との交流を行いました。各大学同窓会役員が登壇しての近況報告では、烏帽子会から小玉 正太 会長(13回生)が、朔 啓二郎 名誉会長(1回生)、林 英之 副会長(1回生)、和田 秀一副会長(13回生)、理事の北島 研(21回生)をご紹介頂き、来年度の福岡大学主幹の西部会案内を再度行って頂きました。

続いて翌週の全国会は、川崎医科大学同窓会が主幹で岡山駅隣接のホテルグランビア岡山にて開催されました。全国の29私立医科大学同窓会より合計125名の参加がありました。総会では東部会、西部会からの報告と来年度主幹校の自治医科大学の同窓会長からご挨拶がありました。その後の講演会では岡山市出身でバルセロナオリンピック女子マラソン銀メダリストの有森裕子さんから陸上競技を諦めず挑戦し続けたご経験を伺いました。懇親会では、川崎医科大学 川崎誠司理事長

来賓挨拶の後、卒業学年が近い出席者がテーブルで一緒にできるような席次表で宴席が始まりました。私のテーブルでも自治医科大学や産業医科大学、防衛医科大学も交えた様々な私立医科大学ご出身で、同年代の先生方と各同窓会での取り組みや同窓会活動に関する創意工夫の情報交換を行うことができました。各同窓会からの近況報告では、小玉会長、和田副会長が大学行事で中座されたため、烏帽子会からは、林副会長、竹下 盛重 副会長(3回生)、理事の北島が登壇し、ご挨拶させて頂きました。

冒頭で申し上げましたが、来年度の西部会は烏帽子会が主幹当番校となり、令和8年10月17日土曜日にソラリア西鉄ホテル福岡で開催予定です。西日本地区の私立医科大学同窓会との交流の場を烏帽子会が福岡市天神で提供することになります。今後とも烏帽子会と全国会、西部会との連携を行うことで、私立医科大学同窓会活動での様々な情報の共有を進め、烏帽子会の発展に寄与していきたいと考えております。



支部だより

第 20 回北九州支部レディース会

安藤ゆきこレディースクリニック 安 藤 由起子 (6回生)

2013 年の烏帽子会報に第 1 回北九州支部レディース会について報告いたしました。その年より北九州支部レディース会は 1 年に 2 回開いていましたが、2014 年より会の日程を 3 月 3 日の雛祭り、9 月 9 日救急の日に固定して開催しています。また 2024 年からはお店も小倉北区馬借のイタリアン料理ペリゴールと決めました。会費制にはしていないため会計担当はおらず、会食費用を当日割り勘としています。案内の送付は現在は 2024 年 8 月に作成した LINE および SMS と郵送にて行っています。

レディース会は 2013 年 2 月より 2020 年 3 月まで 15 回行った後、2020 年 9 月より 2023 年 3 月までコロナウイルス感染症の影響にて休止し 2023 年 9 月より再び開催しています。

さて今回 2025 年 9 月 9 日に来賓に小玉正太同窓会会長をお迎えして 20 回目となる北九州支部

レディース会を行いましたので御報告いたします。9 月 9 日は火曜日でしたので（案内は初めて本部にお願いし 64 名に送付しましたが）出席者は来賓を入れて 10 名でした。何気無い日常生活・日常診療・家族・趣味・医師会・果ては懐かしの七隈トークまで、小玉先生をお招きしながらも熟女による女子トークは続き小玉先生を驚かせたかも知れません。同じ学び舎で学んだ私たちには先輩後輩を抜きにして共鳴・共感する部分が多く気楽な関係であると思っています。

女性医師は忙しくて時間が無い人ばかりですが、なんとか時間を作り顔を合わせてこの医療の厳しい時代を烏帽子会パワーで乗り切れるように願っています。これまで参加したことのない方、北九州で研修している方など新しい参加者も、ちょっとしか来ていない方も常にお待ち申し上げます。どうぞ宜しくお願い致します。



参加者:小玉正太同窓会会長、香月きょう子先生(家勤医)、市岡泰子先生(勤務医)、倉島雅子先生(家勤医)、外山あつこ先生(勤務医)、真鍋祐美子先生(家勤医)、武末佳子先生(勤務医)、田辺尚子先生(家勤医)、村田知子先生(家勤医)、安藤由起子(家勤医)

学生会員支援報告

新入生歓迎会

福岡大学医学部 再生・移植医学 教授 小 玉 正 太 (13回生)

本年5月20日、ホテルニューオータニ博多において新入生歓迎会を開催しました。当日は、学生、クラス担任、事務課・医学教育推進講座・OBOGにご参加いただき総勢163名による祝宴となりました。

初めに、学部長であり、同窓会会長でもある小

玉の挨拶があり、その後担任、職員の方々、学生もステージに上がり一言ずつスピーチをいただきました。昨年の反省からノンアルコールとしましたが、なんだかぎこちない雰囲気が最後まで続いてしまい、これもまは来年への反省として改良していきたいと思いました。



会長挨拶



1年生クラス担任挨拶



クラス主担任乾杯



OBOG 挨拶



医学部事務課紹介



医学教育推進講座紹介



有意義な6年間でありますように

M4CBT 激励会報告

医学教育推進講座 教授 北 島 研 (21回生)

2025年8月1日にM4CBT激励会が開催されました。CBTとOSCEはクリニカルクラークシップを開始するために必ず突破しなければならない共用試験であり、現在は医師法によって定められた公的試験となっています。合格することで、臨床実習生の称号が与えられ、クリニカルクラークシップに参加することが可能となります。M4学生にとっては、単なる進級試験以上の意味を持つ重要な関門で、CBTは知識を問う試験であるのに対し、OSCEは臨床技能を測る実技試験となっています。公的試験となってからは、どちらも医療系大学間共用試験実施評価機構(CATO)の監督のもと、厳正に実施され、各大学ではなくCATOが合否判定を行っています。福岡大学においては、これらの共用試験が10月に実施されており、夏季休暇に入るこの時期に毎年CBT激励会が催されています。はじめに、先輩からの合格体験談として4名のM5学生から、勉強方法に加え、夏休みの過ごし方、メンタルマネジメントそして試験当日の過ごし方に至るまで懇切丁寧なアドバイ

スがありました。最も近い上級生から実践的なヒントが多く含まれた講話であり、M4学生にとっては参考になることばかりで、全員が熱心に聞き入っている様子が印象的でした。次に、各班の担任から激励の言葉があり、これらに対しM4学生代表からお礼の言葉が述べられ、全員で合格を目指すという力強い挨拶がありました。最後に、担任からのメッセージが包みに書かれた鰻弁当が学生全員に一人ずつ手渡され、解散となりました。多くの心のこもった応援メッセージをもらい、美味しいものを食べ、心もお腹も満たされたM4学生の瞳には覚悟と希望が映っているように感じられました。最後になりましたが、この激励会をご支援くださった烏帽子会の諸先生方、皆を温かい雰囲気で見守りながら司会進行の労を担って頂いた内分泌・糖尿病内科学教授 川浪 大治先生(21回生)、当日の運営に多大なるご尽力をいただいた小山烏帽子会事務局長、そして医学部事務課の関係諸氏に厚くお礼を申し上げます。

司会 川浪 大治先生⁽²¹⁾



1. 先輩 M5 からのアドバイス



牟田 侑未さん

浅野 大さん

吉田 桐子さん

吹上 航平さん

2. 班担任の先生からの激励

班	講座・診療科	教員氏名	鯉弁当に添えていただいたメッセージカード
1	生理学	 藤田孝之先生	『CBT』がんばってください。応援しています。
2	消化器内科	 平井郁仁先生⑭	CBTは医師になるための、最初の大きな関門と思います。 皆さんが無事乗り越えられることを祈っています。 頑張ってください！
3	内分泌・ 糖尿病内科	 高土祐一先生	自信を持って頑張ろう！必ず乗り切るぞ！
4	呼吸器内科	 井上博之先生	自分を信じて、冷静に最後まで頑張ってください！
5	脳神経内科	 津川潤先生	CBT 頑張ってください。病棟実習でお待ちしています！！
6	精神神経科	 衛藤暢明先生	医師になる上での大事な通過点として、しっかり準備して 取り組んで下さい。
7	皮膚科	 佐藤絵美先生⑩	難しい試験問題は1人で抱えこまず、皆で共有していきましょう。 お互い記憶に残って身につきやすくなりますよ。 応援しています！
8	呼吸器・ 乳腺・ 小児外科	 上田雄一郎先生	落ち着いて普段通りの力を発揮してください。
9	産婦人科	 平川豊文先生⑤	日々研鑽怠らず、自信をもってCBTに挑んでください！ 君ならできる。必ず合格します。
10	救命救急 センター	 岩朝光利先生⑰	CBT 頑張ってください。応援しています。

3. M4 学生代表からお礼の言葉



M4 二宮 裕之さん



4. 班担任から M4 学生へ鰻弁当を手渡し



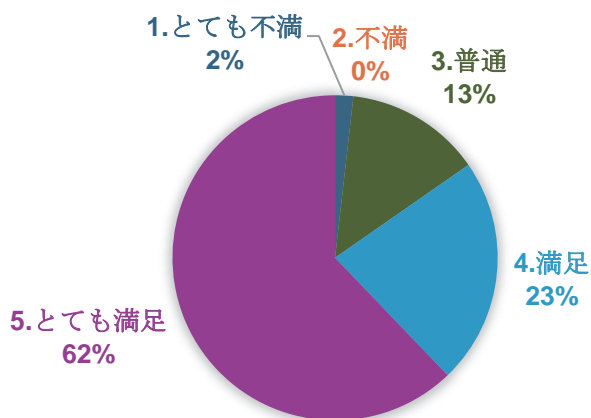
5. M4 学生からの個別質問へ回答



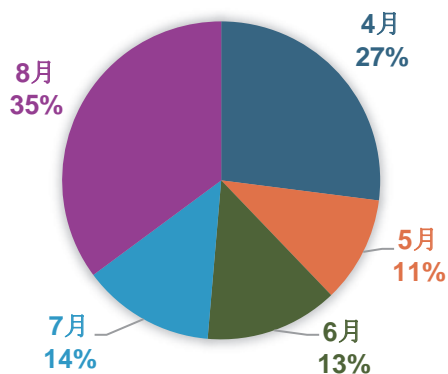
6. M4 学生からのアンケート結果 (111 名)

- ① とても満足と回答した M4 学生は 64% で、感謝の言葉「ありがとうございました」「参考になりました」「感謝しています」などが多かった。
- ② 不安の軽減とモチベーション向上「不安が和らいだ」「やる気が出た」「気合が入った」など、精神的な支えになった様子が見られた。
- ③ 勉強計画への意識の変化「逆算して計画を立てたい」「夏休みの過ごし方を見直したい」など、具体的な行動目標へ繋がっていった。
- ④ 体験談のリアリティが好評で「リアルな体験談」「失敗談や後悔も聞けてよかった」など、実際の経験が響いていた。
- ⑤ 先輩との距離感が近く感じられた。「同じ生徒という視点から」「近い学年からの話が信頼できる」など、親近感が安心感になった様子だった。
- ⑥ CBT 激励会の開催時期の調査では、夏休み前の現行 8 月が 35% と最も多く、次いで 4 月が 27% を占めていた。M4 学年開始後すぐの CBT 対策のニーズもあり、来年度以降の開催時期については今後、再考の余地があると考えられた。

CBT 激励会の満足度は？



CBT 激励会開催時期はいつが良いと思いますか？



令和7年度 M1 白衣授与式のご報告

医学教育推進講座 教授 北 島 研 (21回生)

令和7年9月1日月曜日午前9時より、M1 白衣授与式を行いましたので、ご報告いたします。この白衣授与式は、昨年に引き続き烏帽子会主催で1年生の行動科学Ⅰ（看護実習・CC体験）という科目の冒頭に行われ、医学科入学後の初回病棟実習開始の式典であります。烏帽子会長の小玉正太医学部長(13回生)よりご挨拶を頂いた後、福岡大学病院長 三浦伸一郎先生(11回生)の代理で、副病院長 平井郁仁先生(14回生)にご挨拶を頂きました。授与の際は、烏帽子会正会員のご子弟・ご子女である M1 学生 13 名に代表としてご協力頂き、烏帽子会の教授理事より自分の名前刺繍入りケーシー白衣を授与頂き、着用しました。その後、前山彰先生(25回生)のご子息 前山嵩彰さんが M1 代表として烏帽子会への御礼の挨拶

後、学内教授と看護部長も加わり M1 学生皆で写真撮影を行いました。実習オリエンテーション後の午後からは、真新しい白衣で福岡大学病院各病棟へ実習配属となりました。計3日間で、看護師と業務を共にする看護実習を2日間、残り1日は M5 学生とペアになり屋根瓦式で指導を受けるクリニカルクラークシップ (CC) を体験しました。病棟では積極的に患者さんと話をし、脈拍数測定を行い、他職種とも意見交換して、診療や病棟実務に触れて頂くようにしました。実習評価表には、看護師や患者さんからの激励の言葉が数多く書かれており、後日 M1 学生の手元に届ける予定です。最終日には M1 学生が自ら司会進行する発表会を行い、実習で学んだことの振り返りを看護部長、班担任とともに行いました。臨床実習へ向



けた学習意欲を向上させるという科目目標に到達できたのではないかと感じています。実習終了後には M1 学生を代表して、小柳邦夫先生（10 回生）のご子息である小柳諒眞さんよりお礼状を頂いておりますので、併せてご報告致します。この M1 白衣授与式も、病院本館建替えに伴い例年会場としていた臨床大講堂は今年度が最後となり、来年

度からは新しく病院本館横に竣工する多目的棟で開催の予定です。

末尾になりましたが、看護実習の準備や運営を頂いた看護部、病棟スタッフの皆様、CC 体験実習に際しご指導を頂いた M5 学生、そしてケーシー白衣をご提供頂いた烏帽子会の皆様に感謝申し上げます。



この度は白衣授与式を挙行していただきありがとうございます。授与された白衣を着て病院に入ること、医学生であるという自覚をより強く持つことができました。実習では医師、看護師、薬剤師など様々な職種が深く関わり合っており、患者さんと向き合っていることを再認識しました。患者さんを支える医療チームの1人として信頼される医師を目指し、勉学に励みます。

令和七年度医学科一年代表 小柳諒眞

キャンパスだより

西医体と節目

福岡大学医学部医学科 瀬 口 絢 士 (M5)

こんにちは。医学部水泳愛好会に所属しております医学科5年の瀬口絢士と申します。この度、私事ではありますが昨年行われました西日本医科学学生体育大会についての結果報告の機会をいただき、誠に光栄に存じます。

私は昨年の4年次に第76回西日本医科学学生体育大会競泳部門（西医体）の50m自由形と100m自由形に出場し、両種目で優勝を果たすことができました。前年に樹立した自身の大会新記録を更新することは叶わず、少し悔しさの残る結果となりました。それでも3年次の西医体の2冠に続き2連覇を達成することができたのは、日頃より支えてくださる先生方、OBOGの方々、そして同じ福岡大学医学部に通う仲間達のおかげです。応援してくださった皆様に心より感謝申し上げます。

大学の方針により5年生と6年生は部活動を禁止されているため、昨年の西医体をもちまして私は競技者を引退いたしました。コロナ禍の影響で

2年生までは西医体が開催されなかったため、結局出場できた西医体は2回だけとなりました。他大学の5,6年生が西医体に出場する中、自分が出場することができないのは正直なところやりきれない気持ちでいっぱいですが、それでも最後の西医体を有終の美で終えることができたのはこの上ない喜びでした。競泳選手として輝くことはもう叶いませんが、これまでに勝ち取った実績や喜びは別の分野でも努力するモチベーションになり得ると信じて、これからも精進していきたいです。

私は21年間の競技生活に終止符をうちましたが、これからの福岡大学医学部の部活動の活躍は可能性と才能に溢れた後輩達に託したいと思います。それぞれ頑張る分野や場面は異なりますが、引き続き私たち福岡大学医学生の今後の活動を温かく見守っていただけますと幸いです。応援よろしくお願いいたします。



烏帽子会賞を受けての想い

福岡大学医学部医学科 山 田 芙実香 (M3)

このたびは、烏帽子会賞という荣誉ある賞を賜り、誠にありがたく存じます。このような貴重な機会をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。

第63回九州山口医科学生体育大会は、入学後の大会であり、他大学の方々と交流も初めてで、大変緊張いたしました。自分では意識していないつもりでも、「経験者だからこそ結果を出さなければならない」という思いが心のどこかにあり、プレッシャーを感じていたように思います。ゴルフにおいて、プレッシャーは最大の敵と言われますが、その中でも同組の方々と楽しく回ることができ、前半42後半43 85で優勝することができました。

第64回の大会は、強い思いを胸に臨みましたが、体調面の不安を抱えた中での本番となりました。他大学の選手と切磋琢磨しながら、前半39、後半46、計85で優勝し、念願の2連覇を果たすことができました。練習した成果を信じて頑張りましたが、2位との差が1打、2打と僅差であり、悔しさの残る結果でもありました。

来年が最後の出場となります。これまで大会で満足のいくラウンドができたことがないため、次こそは納得のいくプレーができるよう励んでまいります。また、後輩の育成にも力を入れ、文武両道を目指し精進してまいります。



福岡大学医学部同窓会諸表

令和6年度収入支出決算

区分	科 目	R6年度予算	R6年度決算	予算 - 決算	R6年度決算内訳
収 入	繰 越 金	13,409,219	13,409,219	0	
	会 費 収 入	31,140,000	32,844,283	△ 1,704,283	入会費:5,162,926 学年会費:4,420,183 年会費:21,411,463 準年会費:186,046
	保険コンサルティング広告料	250,000	250,000	0	
	雑 収 入	20,000	3,240	16,760	Tシャツ、預金利子
	預 り 金 収 入	40,000	36,580	3,420	給与源泉徴収
	総会 27 回生寄付	0	790,000	△ 790,000	
	借 受 金		3,000,000		
	合 計	44,859,219	50,333,322	△ 5,474,103	
支 出	給 与	3,330,000	3,143,520	186,480	
	旅 費	2,900,000	3,338,340	▲ 438,340	役員旅費:583,585 支部総会旅費:106,640 評議員会:413,200 支部長会:356,860 私大連絡会旅費:1,152,235 通勤旅費:175,180 その他:550,640
	事 務 用 品 費	400,000	433,690	▲ 33,690	
	印 刷 費	4,060,000	3,463,003	596,997	会報:3,144,162 封筒:66,000 その他:252,841
	通 信 運 搬 費	2,300,000	1,712,213	587,787	電信電話:67,747 会報:999,947 切手葉書:75,578 その他:568,941
	設 備 工 事 費	400,000	350,680	49,320	ホームページ更新料
	什 器 備 品 費	240,000		240,000	
	事 業 費	22,208,000	18,747,817	3,460,183	総会費:1,558,041 研究奨励賞:2,280,067 在外研:修援助金:400,000 学生会員支援:3,659,622 学生行事援助:3,314,732 国試対策費:590,071 支部活動費:1,500,531 支部祝儀:140,000 大学院生への援助:1,080,000 M1M5白衣贈与:2,812,540 慶弔費:2,437,765 学会寄付:2,450,000 学生行事援助:130,000 医学教育貢献者表彰:54,070
	会 議 費	2,800,000	1,591,260	1,208,740	理事会:130,431 評議員会:721,507 支部長会:306,682 私大連絡会:432,640
	公 租 公 課	10,000		10,000	収入印紙
		71,000	71,000	0	福岡県民税:21,000 福岡市民税:50,000
	雑 費	2,033,000	2,277,939	▲ 244,939	税理士報酬:33,000 渉外費:383,214 業務用グッズ:167,796 その他:1,092,827 慶弔費:601,102
	預 り 金 支 出	40,000	107,157	▲ 67,157	給与源泉徴収税
	引 当 金 積 立	2,000,000	0	2,000,000	
	借 入 金 返 却	0	0	0	
	予 備 費	2,067,219	0	2,067,219	
	合 計	44,859,219	35,236,619	9,622,600	
	収 支 差 引	0	15,096,703	△ 15,096,703	

令和6年度残金処分

残金額 (収支差引額)	15,096,703 円
奨学金積立金積立	0 円
刊行物積立金積立	0 円
事業積立金積立	0 円
次年度繰越	15,096,703 円

令和6年度特別会計決算

	事業積立金	奨学金積立金	刊行物積立金	合計
前年度より繰越	87,322,959	14,829,141	15,881,690	118,033,790
本年度増加額	7,050,000	155,958		7,205,958
本年度受取利息	461			
本年度減少額	-20,330,495		-505,800	-20,836,295
本年度決算額	74,042,925	14,985,099	15,375,890	104,403,914

令和6年度事業報告と令和7年度事業計画

項 目	年 度	令和6年度事業計画	令和6年度事業報告	令和7年度事業計画	
		予算 (A)	実績 (B)	予算 (C)	(C) - (A)
① 会 報 の 発 行		3,875,250	4,144,109	3,948,000	72,750
② 総 会 の 開 催		2,500,000	1,558,041	2,500,000	0
③ 支 部 活 動 援 助		2,000,000	1,500,531	2,000,000	0
④ 研 究 奨 励 賞		2,000,000	2,280,067	2,000,000	0
⑤ 在 外 研 修 援 助		2,000,000	400,000	2,000,000	0
⑥ 学 生 会 員 支 援		4,200,000	3,314,732	4,200,000	0
⑦ 白 衣 贈 与		2,140,000	2,812,540	2,140,000	0
⑧ 国 試 対 策 費		2,000,000	590,071	2,000,000	0
⑨ 支 部 祝 儀 贈 与		230,000	140,000	230,000	0
⑩ 学 生 行 事 援 助		960,000	130,000	960,000	0
⑪ 学 会 寄 付		1,500,000	2,450,000	1,500,000	0
⑫ 慶 弔 贈 与		300,000	2,437,765	300,000	0
⑬ グ ッ ズ 作 製		0	0	500,000	500,000
⑭ 会 員 名 簿 発 行		5,400,000	5,765,123	0	▲ 5,400,000
⑮ パニックマニュアル発行		0	0	4,000,000	4,000,000
⑯ 奨 学 金 貸 与		0	0	0	0
⑰ 縁 結 び		24,000	23,540	0	▲ 24,000
⑱ 保険コンサルティング		30,000	0	30,000	0
⑲ ホ ー ム ペ ー ジ		24,000	23,540	48,000	24,000
⑳ 大 学 院 生 援 助		1,200,000	1,080,000	1,200,000	0
㉑ 学生医学教育貢献者賞		200,000	54,070	200,000	0
合 計		30,583,250	28,704,129	29,756,000	△ 827,250

令和7年度収入支出予算

区分	科 目	R6予算	R7予算	R7予算摘要	R6算 - R7予算
収 入	繰 越 金	13,409,219	15,096,703		△ 1,687,484
	会 費 収 入	31,140,000	31,740,000	入会費：49,580 × 110 人 × 0.80 ≒ 4,360,000 学年会費：9,797 × 550 人 × 0.88 ≒ 4,740,000 年会費：9,797 × 3,480 人 × 0.66 ≒ 22,500,000 準年会費：4,797 × 34 人 × 0.86 ≒ 140,000	△ 600,000
	保険コンサルティング広告料	250,000	250,000		0
	雑 収 入	20,000	20,000		0
	預 り 金 収 入	40,000	40,000		0
	借 入 金				0
	合 計	44,859,219	47,146,703		△ 2,287,484
支 出	給 与	3,330,000	3,330,000	パート 1 名、短期パート 1 名	0
	旅 費	2,900,000	3,000,000	役員旅費：600,000 評議員会：600,000 私大連絡会：1,100,000 通勤費：200,000 その他：500,000	△ 100,000
	事 務 用 品 費	400,000	400,000		0
	印 刷 費	4,060,000	4,160,000	会報：3,500,000 封筒：500,000 その他：160,000	△ 100,000
	通 信 運 搬 費	2,300,000	2,400,000	電信電話：100,000 会報：1,500,000 切手葉書代：300,000 その他：500,000	△ 100,000
	設 備 工 事 費	400,000	400,000	維持契約費	0
	什 器 備 品 費	240,000	240,000		0
	事 業 費	22,208,000	22,208,000	総会費：2,500,000 研究奨励賞：2,000,000 在外研修援助金：2,000,000 学生会員支援費：4,200,000 国試対策費：2,000,000 学生行事援助費：960,000 支部活動費：2,100,000 支部祝儀：230,000 M1,M5 白衣贈与費：2,140,000 大学院生援助：1,200,000 慶弔費：300,000 学会寄付：1,500,000 保険コンサルティング：30,000 WEB サイトサーバー費：48,000 事業予備費：1,000,000	0
	会 議 費	2,800,000	2,800,000	理事会・会長懇話会：1,200,000 評議員会：800,000 各種委員会：300,000 その他：500,000	0
	公 租 公 課	81,000	81,000	法人県市民税：71,000 収入印紙：10,000	0
	雑 費	2,033,000	2,033,000	税理士報酬：33,000 渉外費：500,000 弁護士登録料：66,000 その他慶弔費：1,434,000	0
	預 り 金 支 出		40,000	40,000	
	引 当 金 積 立	2,000,000	1,000,000		1,000,000
	借 入 金 返 却		3,000,000		△ 3,000,000
	予 備 費	2,067,219	2,054,703		12,516
	合 計	44,859,219	47,146,703		△ 2,287,484
	収 支 差 引	-	-		0

医局長・医長名簿

(○内の数字は福大医学部卒業回)

令和7年10月現在

	医 局 長	病 棟 医 長	外 来 医 長
〔 福 岡 大 学 病 院 〕			
腫瘍・血液・感染症内科	佐々木 秀 法	中 島 勇 太 ③①	茂 木 愛 ②⑤
内 分 泌・糖 尿 病 内 科	高 士 祐 一	千 田 友 紀 ④⑥	横 溝 久
循 環 器 内 科	有 村 忠 聰 ②⑧	出 石 礼 仁	加 藤 悠 太 ③③
消 化 器 内 科	船 越 禎 広 ②③	松 岡 弘 樹 ③⑦	古 賀 毅 彦 ③③
呼 吸 器 内 科	春 藤 裕 樹	池 田 貴 登	濱 田 直 樹
腎 臓・膠 原 病 内 科	高 橋 宏 治 ③②	永 室 尚 子	多 田 和 弘
血液浄化療法センター		伊 藤 健 二 ②⑤	
脳 神 経 内 科	津 川 潤	井 上 賢 一 ③⑧	栗 原 可 南 子
精 神 神 経 科	飯 田 仁 志 ③②	畑 中 聡 仁	菅 原 裕 子
〃 (ディケア)			吉 村 裕 太
小 児 科	宮 本 辰 樹 ②⑦	山 口 拓 洋 ③⑦	女 川 裕 馬
消 化 器 外 科	山 田 哲 平 ②⑦	橋 本 恭 弘	中 島 裕 亮
呼吸器・乳腺・小児外科	宮 原 聡	若 原 純 一 ③⑦	中 島 裕 康
整 形 外 科	石 松 哲 郎 ③②	柴 田 光 史	三 宅 智 ③③
形 成 外 科	小 柳 俊 彰	谷 あ り さ	前 岡 尚 憲
脳 神 経 外 科	竹 本 光 一 郎 ②⑥	手 賀 丈 太	榎 本 年 孝 ③③
心 臓 血 管 外 科	桑 原 豪 ②⑦	寺 谷 裕 充 ③①	古 井 雅 人
皮 膚 科	清 水 裕 毅 ③⑥	大 賀 保 範	佐 藤 絵 美 ③⑩
腎 泌 尿 器 外 科	宮 崎 健 ③④	郡 家 直 敬	岡 部 雄
産 婦 人 科	吉 川 賢 一 ③⑥	漆 山 大 知 (産科) ③①	伊 東 智 宏 (産科) ②⑨
〃		宮 田 康 平 (婦人科) ②⑨	清 島 千 尋 (婦人科)
眼 科	原 田 一 宏	安 武 朋 寛	川 村 朋 子
耳 鼻 咽 喉・頭 頸 部 外 科	佐 藤 晋 ③⑩	力 丸 文 秀 ①⑧	木 村 翔 一
放 射 線 科	肥 田 浩 亮	赤 井 智 春 ②⑦	中 根 慎 一 朗
麻 酔 科	富 永 将 三	平 井 規 雅	柴 田 志 保 ②⑥
歯 科 口 腔 外 科	喜 多 涼 介	眞 野 亮 介	吉 野 綾
総 合 診 療 科	日 吉 哲 也	瀬 知 裕 介 ③⑧	吉 田 圭 希 ④⑩
病 理 部	上 杉 憲 子		
臨 床 検 査・輸 血 部	森 戸 夏 美 ①⑧		
救 命 救 急 セ ン タ ー	森 本 紳 一 ③⑤	村 西 謙 太 郎 ③⑤	
総合周産期母子医療センター		新 居 見 俊 和 (新生児部門)	
〃		小 幡 聡 (小児外科)	
〔 福 岡 大 学 筑 紫 病 院 〕			
循 環 器 内 科	総医局長 三 橋 泰 仁 (耳鼻咽喉・頭頸部外科)	松 岡 優 太 ③⑤	高 宮 陽 介 ②⑥
内 分 泌・糖 尿 病 内 科	池 周 而 ②④	工 藤 忠 睦 ②③	小 林 邦 久
呼 吸 器 内 科	阿 部 一 朗	木 下 義 晃	中 島 章 太
消 化 器 内 科	串 間 尚 子	天 野 良 祐 ③②	永 山 林 太 郎 ③②
腎 臓 内 科	金 光 高 雄	盛 田 大 輔	平 松 晶 子
脳 神 経 内 科	安 野 哲 彦 ②④		
小 児 科	平 井 貴 彦 ③⑥	塩 手 仁 也 ③⑥	中 尾 あ い 子
外 科	小 島 大 望 ②⑥	宮 坂 義 浩	和 田 英 雄
呼 吸 器・乳 腺 外 科	諸 鹿 俊 彦	小 野 周 子 ④⑥	諸 鹿 俊 彦
整 形 外 科	坂 本 哲 哉	小 阪 英 智 ③④	蓑 川 創 ③⑩
脳 神 経 外 科	井 上 律 郎 ②⑨	井 上 律 郎 ②⑨	湧 田 尚 樹
腎 泌 尿 器 外 科	松 崎 洋 吏 ②⑦	宮 島 茂 郎 ②②	王 丸 泰 成 ③①
眼 科			
耳 鼻 咽 喉・頭 頸 部 外 科	三 橋 泰 仁 ③③	坂 田 健 太 郎 ③⑨	坂 田 健 太 郎 ③⑨
放 射 線 科	浦 川 博 史 ①⑤		
救 急・総 合 診 療 科	川 野 恭 雅		
麻 酔 科	若 崎 る み 枝		
内 視 鏡 部			
病 理 部	田 邊 寛 ②②		

※印は循環器内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科の代表医長

教育職員人事（講師以上）

（○内の数字は福大医学部卒業回）〔令和7.4.2～令和7.10.1〕

区分	所 属	役職・資格	氏 名	発令日	摘 要
退職	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	准 教 授	庄 司 文 裕	7.7.31	
	筑紫眼科	准 教 授	久 富 智 朗	7.7.31	
	再生医療センター	准 教 授	吉 松 軍 平	7.9.30	
	整形外科	講 師	松 永 大 樹	7.9.30	
	筑紫消化器内科	講 師	小 野 陽一郎 ②⑥	7.9.30	
	腎臓・膠原病内科	講 師	渡 邊 真 穂	7.9.30	
昇 格	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	講 師	宮 原 聡	7.10.1	
	筑紫脳卒中センター	講 師	湧 田 尚 樹	7.10.1	
	消化器外科学	講 師（4-7）	島 岡 秀 樹	7.10.1	
	臨床検査・輸血部	講 師（4-7）	小 牧 智 ②⑨	7.10.1	
	腎臓・膠原病内科	講 師（4-7）	嶋 本 聖	7.10.1	
	腎臓・膠原病内科	講 師（4-7）	多 田 和 弘	7.10.1	
	消化器外科	講 師（4-7）	高 橋 宏 幸	7.10.1	
	精神神経科	講 師（4-7）	原 田 康 平	7.10.1	
	筑紫整形外科	講 師（4-7）	蓑 川 創 ③⑩	7.10.1	
採用	腫瘍・血液・感染症内科	講 師	島 隆 宏	7.10.1	

◆ 会 報 原 稿 募 集 ◆

会報への寄稿を募集しております。在宅医療のお話などお願いいたします。

締め切り：春号 3月末 秋号 9月末

編 集 後 記

学会シーズンにふさわしく、本号は極めて学術性の高い報告に満ちており、同窓会関係者の旺盛な活動ぶりに深い感銘を覚えながら拝読いたしました。特に、若手研究者による質の高い研究成果が本学から次々と発信されていることは、まことに心強く、頼もしい限りです。リサーチマインドの醸成には、学生教育の充実が不可欠であり、その基盤を支える同窓会のご支援に、改めて敬意を表したいと思います。

医師法改正により公的試験となった CBT や OSCE に挑む学生たちが、同窓会の後押しを受けながら成長していく姿には、同窓会としての温かな役割を改めて感じました。あわせて、FU-OMSA を受賞された学生の皆様に心より祝意を表します。今回の受賞は、これまでの努力に対する荣誉であると同時に、今後さらなるご活躍を期待される証でもあります。ぜひ今後も、受賞者としてふさわしい飛躍を遂げられますよう、期待しております。

近年、医療を取り巻く環境は一層厳しさを増しておりますが、次代を担う皆様がさらに活躍され、福岡大学医学部の名をますます高めてくださることを切に願っております。

末筆ながら、本誌の刊行にご尽力くださった関係各位に深く感謝申し上げます。

担当理事 川浪 大治

烏帽子会の主な事業

福岡大学医学部同窓会烏帽子会は、会員の親睦・連携・信頼を紡ぐことを目的とし、福岡大学医学部の発展に貢献するため下記の事業を行っています。

①会報の発行

年に2回発行しており、会員と学生会員保護者へ無料にてお届けしています。

②総会の開催

担当学年の特色を出した総会を開催しています。

③支部活動援助

支部総会に学内の同窓生を講師として招聘された場合援助費を支給しています。

支部にて年会費を徴収された場合、通信活動費用として正会員1人2,000円、準会員1人1,000円交付しています。

④研究奨励賞

正会員及び準会員で、会費を完納している40才未満の者又は医学科卒業後10年未満の者に、研究計画並びに研究成果に対し研究奨励賞を授与しています。

⑤在外研修援助

正会員、準会員で会費を完納している者、留学の目的が医学の研究または医療技術の習得であり、且つその期間が3ヶ月以上である事を条件に援助を行っています。

学生会員にも規定に沿って援助しています。

⑥学生会員支援

新入生、M4、M6生への激励会、新5年生の成績優秀者の表彰を実施しています。

⑦白衣贈与

1年生(ケー型)、5年生で使用するBSL用の白衣2着(長着とケー型または半袖)を贈与しています。

⑧国試対策

夏期、直前に開催されるセミナーへの協力、試験中のケア、国試激励会への協力をしています。

⑨支部総会援助

支部総会に理事が出席する場合は祝儀をお届けしています。

⑩学生行事援助

学生会員が、対外試合または活動において優勝或いは優秀な成績を収めた場合、その団体または個人に対し、その栄誉を讃え賞状、賞金または賞品を授与して表彰しています。

学生会・医学祭運営に関する相談、及び、監査を行っています。

⑪学会寄付

同窓会員(正会員、準会員)が学会を開催するにあたり申請があった場合、理事会にて学会の規模等を検討し寄付を行っています。特別会員からの申請にも対応しています。

⑫慶弔贈与

同窓会会員の慶弔に対し、規定に基づき電報、祝儀、弔慰金をお届けしています。

⑬グッズ作製

ネクタイ、スカーフ、Tシャツ、白衣の作製をしています。

⑭会員名簿発行

4年毎に名簿を発行し、会員には無料にてお届けしています。

⑮パニックマニュアル発行

5年毎に作製し、会員に無料にてお届けしています。会員が執筆を行い、研修医を対象として作製しています。卒業生には名簿とパニックマニュアルを同窓会よりの卒業祝いとしています。

⑯奨学金貸与

福岡大学医学部医学科学生(主に上学年)で学業成績優秀、品行方正、身体強健なるも経済負担能力に乏しい者に対し、奨学金を貸与し、優秀な学生の育成に寄与する事を目的として実施しています。

⑰保険コンサルティング

シンフォニアと提携し、学生会員への保険のご案内をしています。また正会員へは弁護士、社労士等の紹介をしています。

⑱ホームページ

ホームページをリニューアルし、会員へ情報提供をしています。

⑲大学院生への援助

基礎系及び臨床系大学院の入学金の援助を行っています。

烏帽子会会報第79号

発行日 令和7年12月1日

発行人 小玉 正太

編集人 小玉 正太

発行所 〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1

福岡大学医学部同窓会

電話:092-865-6353(直通)

092-801-1011(代表) 内線[3032]

FAX:092-865-9484

E-mail: maileboshi@gmail.com

印刷所 ロータリー印刷株式会社

福岡市中央区港2-8-9

電話:092-711-7741

FAX:092-711-7901